

まちのスケッチブック

あたらしいまちづくりをめざす VOL-7

泉佐野市議会議員

ちよまつ ひろやす
千代松 大耕 (28歳)



9 月 定 例 議 会

先の米国における同時多発テロ事件は、何の罪もない多くの人々を巻き込み、未曾有の被害をもたらしました。この憎むべきテロ行為は、米国のみならず人類に対する卑劣な攻撃であり、断じて許すことはできません。今回の事件で多くの尊い人命が失われたことに対し、心から哀悼の意を表するとともに、被害を受けた方々に対して心よりお見舞いを申し上げます。今回の事件で国際的な危機管理の強化は早急の課題となっております。日本も国際的には通用しない内向きの議論に終始せず、国際社会において平和と秩序を維持するための十分な協調活動を願うところであります。

この事件は私達にとって「二十一世紀ほどどのような時代になつてしまうのか?」といった問いを投げかける凄まじい事件でありました。また今回の事件以外にも、国内では池田小事件、新宿ビル火災などが起こり、「世界一安全な国」という神話が崩れかけています。明日には何が起るかわからない本日に混迷の時代に突入したわけであります。

今後、政治に携わる者として、安全管理、危機管理への万全な措置を行政に対して求めていき、市民の不安感を取り除かなければならない重要な役割を負っていると再認識しているところであります。

我々の住むまち泉佐野市においては、現在多くの市民の方々は泉佐野市の財政状況に不安を持っております。「この先、泉佐野市はどのようなようになっていくのか?」「本当に赤字再建団体に転落してしまうのか?」といった問いを多く受けます。危機的な財政状況を

今回の9月議会において行財政改革第2次計画素案に対して、9月26日に自由民主党を代表して質問いたしました。

回避するために泉佐野市においては昨年の5月に泉佐野市行財政改革推進計画・実施計画を策定しましたが、その計画が、市民の意見が十分に反映されていない、職員全体のものになつていない、計画からの落ち込みや見込むべき事項が盛り込まれていない、等の意見により、今回さらに状況の変化があることから新たな泉佐野市行財政改革推進計画・第2次実施計画(素案)(以下、第2次計画素案)が9月になつてから発表されました。

(1) 定員管理及び給与の適正化について

千代松: どのような点で前回と比べて職員全体のものになつているのか?

答弁: 義務的経費の大半を占める人件費については、その総額を抑制するために、数と単価の抑制に取り組みんでいる。平成十一年度から平成十五年度まで200人の職員数の削減をかけた職員数の抑制に努めている。前回の計画の時と比べて税の収支見通しがさらにマイナスとなっている。事務事業の見直し等で、市民にも一定の負担を求めるとは、職員内部の努力が一層大事となつてくる。前回は職員給与の36ヶ月延伸の方針であったが、

現在は十二ヶ月の延伸にとどまっている。残り二十四ヶ月延伸の実現や、さらなる特別職の給与等のカットを行ない人件費の抑制を行なっていく。

(2) 事務事業の見直しについて

千代松: どのような点で前回と比べて市民の声を反映しているのか?

答弁: 事務事業の見直しについては、限られた財源・ヒト・モノを有効に活用するため、全般にわたって実施している。従来の執行方法や先例・慣例にとらわれることなく見直しを進めていく。今回の計画の策定にあたっては行財政改革推進本部会議に小委員会を設置し、その報告書による結果を反映させている。

(3) 財政の健全化について

千代松: どのような点で新たな変化に対応しているのか?

答弁: 項目は前回と同じだが、徴収率の向上、使用料・手数料の見直し、遊休財産の活用、他会計への繰り出し、投資的事業、公債費の抑制にさらに取り組んでいく。

(4) 行政評価システムの導入について

千代松: 行政評価システムの必要性は前々から議会で問うてきた。今回の計画において今年度中に庁内組織を設置するとあり、やっとな動き出すといった感がある。どのような行政評価システムの導入を図っていくのか?

答弁: 平成十四年度から導入予定である財務会計システムとあわせて、行政評価システムの導入が必要となる。行政コストや行政効果等について、評価・測定することができるとシステムの早期導入に向け、庁内組織を設置する。どのようなものを目指すかはまだ明確でないが、庁内組織で目的・手法・時期等を検討し、段階的にでも導入を図っていきたい。

(5) PFIの活用について

千代松: PFIは公共部門が実施してきた社会資本の整備・運営等の分野に、民間の資金や経営ノウハウを導入し、民間主導で効率的・効果的な社会資本整備を実施し

ていくものである。計画にあるPFIの検討とは、今後泉佐野市の施設においてどのような施設に活用していくつもりなのか？

答弁：

全国的な事例は、「ゴミ焼却場、駐輪場等」があり、最近では小学校建設も実施されたと聞く。今後多額の事業費を必要とする投資的の事業がいくつもあり、具体的事業はまだ示されないが、財政負担の軽減を図る方策について、今後本格的に検討する必要がある。

(6) 環境面からの取り組みは？

千代松：

省エネ、エコオフィスなどを取り組んでいくといった環境面的な取り組みが、昨年の計画にはあったが、今回のものには入っていない。さまざまな環境面からの取り組みによって削減等を行なえるといったことが考えられる。そういった取り組みはどのようなようになっているのか？

答弁：

環境面からのコスト削減は、昨年度から引き続き、冷暖房期間の短縮や、休憩時間の消灯など、光熱水費の節約や、「J-1」紙の節約など積極的に経費削減に取り組んでいる。さらに今年度からは「T」関連の導

入によって大幅なペーパーレスを図っていく。環境面からの取り組みに対しては、職員自らが自覚を持って諸経費の削減に積極的に取り組んで行く。

私は今回の第2次計画素案が計画通り円滑に進めば、泉佐野市の財政は立ち直り、再建団体に陥ることなく自主再建ができ、市民の方々の憂いを取り除けるものであると考えています。この計画を円滑に進めるためには、まず市内での自助努力（もちろん行政だけではなく、議会も）が一番のキーポイントとなり、この部分が他の取り組みの前提にあると思います。

りんくうタウン

泉佐野市と同様、赤字再建団体転落の危機にある大阪府が8月に「大阪府行財政計画（素案）」を発表しました。その中で企業局事業を今後十年間で収束するという計画が上げられ、りんくうタウンの分譲価格も大幅に見直されました。それに伴い泉佐野市もりんくうタウンの分譲を促進するため、今議会では「泉佐野市産業集積促進条例」が可決されました。この条例は、今後りんくうタウンに進出した企業に対して固定資産税、都市計

画税の20%を奨励金として交付するものであり、分譲促進のための刺激策であります。

私自身も昨年の12月議会会で「りんくうタウンの早期成熟を目指すために泉佐野市としても何らかの方策を打ち出すべきではないか？」と質問し、分譲促進の刺激策の必要性を問うて参ったところであり

「負の遺産」の象徴であった、りんくうタウンの空き地が分譲価格の見直しや、こういった刺激策により埋まっていくことにより、新たな経済活動がそこで起こり、新たな雇用の創出にも繋がる、将来的に泉佐野市の繁栄のために絶対プラスになる面が多いと考えております。

市立泉佐野病院 問題対策委員会

(9月21日)

千代松：

小児科救急医療の充実が考えられないのか？

答弁：

小児科救急医療については現在1施設では対応できず、全国的に大きな問題となっている。泉州地域では堺市以南が協力体制をつくり対応をしているところである。今後充実には努めていきたい。

泉佐野市の若い世代の夫婦からは「子どもが晩熟を出しても泉佐野の病院ではどこも診てくれない日があり、遠くまで行かなければならない」といった声をよく聞き、その後には必ず「いい病院があるのになぜなの？」という疑問を投げかけられます。全国的に小児科の医師不足といった問題があり、泉州地域においても十分な対応がなされていない現状であります。今後積極的に小児科救急医療、時間外診療の充実を求めていきたいと考えております。

(千代松)

*市立泉佐野病院の小児科時間外診療は現在左記のとおりとなっております。

木曜日

17時～翌朝8時45分

土曜日

9時～夕方17時45分

日曜日

17時～翌朝6時00分



夢をかたちに(1)

議員の仕事は大きく3つに分けられます。第一に「住民の代表」としての仕事であります。これは住民から寄せられる随意のニーズに対して住民の代表として行政に掛け合います。次に「行政のチェック」としての仕事であります。議会、委員会で行政が策定した予算やさまざまな施策に対して正しく行われているかチェックします。そして3つ目が「政策提言」であります。行政に対して政策を提言することこそ今後、議員に一番望まれることではないかと思えます。この「政策提言」を行うために何が必要かと考えたとき、それは複雑に絡み合っている財政や経済政策に対してそのメカニズムを論理的に解ける力や自分の住んでいる「まち」が現在どのような状態なのかを良く知っておくことが大事であります。国会においては議員立法という言葉をよく聞きますが、地方においては議員提案の条例というのはごくわずかです。国会議員、地方議員にかかわらず、21世紀に必要な議員像は行政を深い知識で分析でき、住民のニーズにあった政策を提言できる姿ではないかと思えます。私自身この能力を高めるべく、ひたむきに努力していく所存であります。

千代松大耕プロフィール

昭和48年10月3日泉佐野市松原生まれ(28歳)

泉佐野市議会議員 自由民主党泉佐野支部政務調査会長

連絡先 泉佐野市松原2-5-31 TEL.58-1708 FAX.63-1222
2001.10第7号 *「まちスケ」のバックナンバーが必要な方は連絡ください。

ホームページ <http://www3.ocn.ne.jp/~chiyo51/>
メール chiyoma51@hotmail.com